



る う て る

2012年
11月
No.779

■発行所■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原1-1
電話 03-3260-8631

■振替口座■ 00190-71734
■ウェブサイト■ <http://www.jelc.or.jp>
■E-mail■ jelc@jelc.or.jp
■発行人■ 徳野昌博 m-tokuno@jelc.or.jp
■印刷人■ 精文堂印刷株式会社
■定価■ 1部 40円 (郵税を含む)

説教 「顔と顔を合わせて」

和田憲明 (日本福音ルーテル箱崎教会・聖ペテロ教会牧師)

「わたしたちは、今は、鏡におぼろに映ったものを見ています。だがそのときには、顔と顔を合わせて見ることになる。わたしは、今は一部しか知らなくとも、そのときには、はつきり知られているようにはつきり知ることになる。」(コリントの信徒への手紙、13章12節)

顔を合わせることなく、
コミュニケーションをは
かると、旧約聖書におい
ても、神がみ顔を向けてく
ださることが、神の愛のし
る者が神に呼びかけ、神が
顔をそむけず、人々がさ
げた犠牲や祈りを確かに
受け取ってくださるよう
に願いました(詩編27:9、
132:10)。つまり神の
顔を見るときは、神との特
的な、親密な関係を持つこ
とです(『キリスト教の天
国』A・Eマクグラス著、顔
と顔を合わせて神と出会



さて神の顔について、旧
くからキリスト教は直に

う(参照)。

例えば詩編の作者も、
神と顔を合わせたとい
う望みを次のように記し
ています。「ひとつのこと
を主に願ひ、それだけを求
めよう。命のある限り、主
の家に宿り、主を仰ぎ望ん
で喜びを得、その宮で朝を
迎えることを」(詩編27編
4節。私たちは神を冒頭
の聖句のとおり「今は、鏡
におぼろに映った」姿とし
か、見ることがゆるされて
いません。けれども神が定
める時「そのときには、
はつきり」と、「ありのまま
に見る」(『ヨハネ3章2
節)のです。そこに私たち
の目から涙を拭き取り、召
天者との再会の楽しみ、天
の国への希望が備えられ
ているのです。



閉塞状態に、他者と出会
い、挨拶し、会話を交わす
のは至難なことです。

しかし、第二次世界大戦
中のナチスドイツによる
ユダヤ人迫害から生き延
びたE・レヴィナスは、「会
話という平凡な事実が、暴
力の驚異から逃れる一筋
の道を指し示す。平凡な事
実こそ、奇跡中の奇跡であ
る。語ることに、それは他者
を認知すると同時に、他者
におのれを認知してもら
うことである。他者は単に
知られるだけでなく、挨拶
される」と、顔と顔を向
き合わせた関係に暴力を
抗する手がかりを伝えま
す。

歩みを創始するのである。
宗教とは、私たちにとつ
て、この道以外にはない。
『困難な自由—ユダヤ教
についての試論』(倫理と
霊性参照)は、現代に鋭い
示唆を与えます。私たちが
再び神と向き合い、その神
が教会へと召し集められ
た(私たちが選べない)兄
弟姉妹も、周囲におられる
人たちの間でも吟味しな
くてはならない問題だ
と思うのです。

「他者とは、殺したいと
いう誘惑に駆られる唯一
の存在者である。この殺害
への誘惑と殺害すること
の不可能性が顔のヴィ
ジョンそのものを構成し
ている。『顔』を見るには、
すでに『汝殺す勿れ』に
従することである。一中略
—それこそ人間の霊的

翻つて私たちは全聖徒
の目を記念し、「この世の
別れが永遠の別れでない
ことを覚えさせ、み許にお
いて再び顔と顔を合わせ
る目を望ませてください。
…その死によって死に打
ち勝ち、今も生きて働いて
おられる主イエス・キリ
ストのみ名によつてお願
いいたします。」(ルーテル
教会式文(礼拝と諸式)「納
棺の祈り」P239参照)
を想起し、キリストの十字
架を中心に、こちら側(礼
拝に集う私たち)と向こう
側(天の国)とで礼拝を守
ります。そして今日も、「主
がみ顔をもつてあなたを
照らし、あなたを恵まれる
ように。(与えられます)、
主がみ顔をあなたに向け、
あなたに平安を賜るよう
に。)(—賜ります)」と、祝
福に与るのです。共に、
顔と顔を合わせて。

宗改五〇〇周年に向けて
ルターの意味を
改めて考える(7)

ルター研究所 所長 鈴木 浩

先月号で指摘した「新
しい義」の理解によって中
世の厚い壁を突破したル
ターは、それを「新しい救
いの理解へと展開する。それ
が、いわゆる『信仰義認論』
だった。

さて、中世後期の人々の
心の底に共通していたメン
タリティーがある。それが
『宗教的不安』である。つま
り、救いの確かさがどうし
ても得られない、という心
理的空洞のことである。

ルターは信仰義認論は、
おそくはキリスト教史上

初めて、その不安を魂の根
底から癒した教えであつ
た。しかも、彼はそれを力強
く、鮮やかに、喜びに溢れて
指し示したのだ。宗教
改革がルターの意味をも意
図をも越えて大きな運動に
なった原因は、素朴な人々
も、ルターその教えに共
感したからであった。

その事態を少し詳しく説
明したいのだが、この欄で
は字数制限があつて、不可
能なので、別枠で改めて説
明したいと思つた。

ルターは神学はこの信仰
義認論の上に構築された。
ルターは想像を絶したエネ
ルギーでこの作業に没頭し
た。その結果、次々に著作が
著され、人々の共感の輪が
さらに広まり、改革運動に
弾みがつくことになった。



連帯献金のお願ひ

- ブラジル伝道
- 「喜望の家」
- メコン流域支援
- 世界宣教のために

郵便振替 00190-7-71734 名義
(宗) 日本福音ルーテル教会

詳しくは4面へ

2013年度
スプリング・マーケット
2013.7.24-8.7

参加者募集 詳しくは JELAへ
Tel.03-3447-1521 jela@jela.or.jp

信徒の声

「静かなる声」

いしだ ひろみ
石田博美
広島教会



静かなる声、耳を澄まして、そっと聴く。自然な、呼吸のように、ことさらに思い入れをすることもなく、礼拝に集い、共に祈り、賛美をする。教会とは？信仰とは？

はたまた「うつろ」に目をおすこともなく、主の声に、耳を澄ます静かなる声。誰かを説得することも、自分を納得させることも、何も必要とすることもない、まさに、この一点にたっていたいと願う。今や教会の中に、この世の言葉が乱舞し、教会は、あまりに多くの事に答え

ようとな身の丈以上の勝手に感じているように感じる。「お前は、何ものぞ」との声が、聴こえてくる。わが広島教会では、この五年間で想定外（今流行りの）の出来事、牧師の転任が相次いで起こった。多くを望んだ結果でも、少なからず望んだ結果でもない。教会をとおして何かをなそうとした痕跡もなく、反省を込めて事を見極めたいとしても、とても救われることでもないかと、あきらめ次の教会、信徒へとゆだねて行く。

今、この世的な「訓練と苦しみ」の中にあつて、主のまさに「人智を超えた」導きを待つ。先日偶然みたドキュメント、東日本大震災の現場で、癌におかされ余命半年の宣告をうけた、老いた医者、たんたんと、今できること、己に与えられた目の前にいる患者を診、聴き、新しい生命、子供を取り上げる。あつく語る事もなく、また手術による延命も期待しながら、「生きる」ということへの希望を失うこともなく。

ボンヘッファーの「行け」という詩の一節『可能性の中に動揺せず、現実的なものを大胆に捕えよ。白く、行為の中にあるのみ。』

由は思想への逃避の中に、私達はいつか地元に戻らなければなりません。その時、地域の人は本意の意図で互いに助け合っていないか、助け合っていないか、と話し合っていました。ボランティアの皆さんと一緒に活動する中で「私達はいつか地元に戻らなければなりません。その時、地域の人は本意の意図で互いに助け合っていないか、助け合っていないか、と話し合っていました。」

おかげさまで少しずつ少しずつ「つるしびな」が出来つつあります。「つるしびな」の素材で優美な姿に、供養と癒しを感じながら前へ進むきっかけになれたらと望みます。

ご協力をお願いします
「つるしびな」製作 ボランティア
内容 仮設団地・地域の方と一緒に「つるしびな」を作製していただきます。
条件 裁縫等ができる方であれば、性別、年齢を問いません。
予定日 11月8日・15日
12月6日・13日・20日（1

牧師の声

「初代のクリスチャンとして」

たじま やすのり
田島靖則
雪ヶ谷教会



今年の6月、父が天に召されました。ちょうど30年前、ミッシヨンスクールに6年間通った私が入学を決めた大学が、ルーテル神大(当時)の福祉科でした。大学入学をきっかけにして、キリスト教の受洗を決意した私が、そのことを両親に告げたとき、父は反対しませんでした。その時から私は親族の中で唯一のクリスチャンとなったのです。

父が私の信仰の自由を認めてくれたのだから、私も父の信仰を認めるべきだとずっと考えていましたので、今回の父の葬儀は、家の宗教である仏式(真言宗豊山派)で行い、長男である私は喪主を務めました。群馬県館林市にある菩提寺には、父の納骨を機に、お墓の事は次男である弟にすべて任せることを伝えようと決めていました。今までお墓の事にはほとんど関わってこなかった私は、菩提寺のご住職がどのような方か知らず、交渉が上手くいくようにと願いつつ、お寺の門をくぐりました。お寺に、保育園が併設されているのを目にして、教会附属幼稚園の園長も務めている私は、話のきっかけができた

少々気持ちが軽くなったものでした。ご住職は保育園長にふさわしく、気さくな方で、私の口から「ルーテル教会の名前が出る」とすぐに、「ああ、それなら聖ルカ保育園の清河先生をご存知でしょうか？」と言われるではありませんか。私は、聖ルカ保育園の評議員も務めているんですよ。ルーテル教会で行われた、先代の清川先生のお葬式で弔辞を読んだのは私です。このご住職の言葉を聞いた瞬間、私の家の宗教と自分の信仰の問題は、すでに30年前に解決されていたことを

知りました。ルーテル神大福祉科の先輩だった清河直美さんのお父様は、館林で病院も経営されるお医者さんでした。そして、日本ルーテル教会の熱心な信徒さんでもありました。学生時代、先輩である清河さんと話をした記憶はありませんが、一度だけ「群馬県には田島姓が多い」という話をした覚えがあります。マタイによる福音書6章8節にある、「あなたがたの父は、願う前から、あなたがたに必要なものをご存じなのだ。」というキリストの言葉を、今しみじみと噛みしめています。

言葉では言い表せない程の災害、不安な日々、身の安否がわからない中、河北ボランティア友の会の会員は、炊き出しなどの活動に追われまわりました。それだけに全国から駆け付けて下さったボランティアの皆さんの献身的な働きには頭が下がっていました。

私達は布集めなど早速行動に移したのですが、三か所の仮設団地とボランティア会員全員への準備は思っていた以上の費用がかかり、行き詰ってしまいました。そんな時、相談にのっていただき、手を差し伸べて下さったのがルーテル教会の援助、会場の準備、おやつの手配まで、真黙に、そして、温かく心掛けて下さりました。

おかげさまで少しずつ少しずつ「つるしびな」が出来つつあります。「つるしびな」の素材で優美な姿に、供養と癒しを感じながら前へ進むきっかけになれたらと望みます。

ご協力をお願いします
「つるしびな」製作 ボランティア
内容 仮設団地・地域の方と一緒に「つるしびな」を作製していただきます。
条件 裁縫等ができる方であれば、性別、年齢を問いません。
予定日 11月8日・15日
12月6日・13日・20日（1

JLER(ルーテル教会救援) 対策本部
現地からのレポート
JLER派遣牧師 野口勝彦

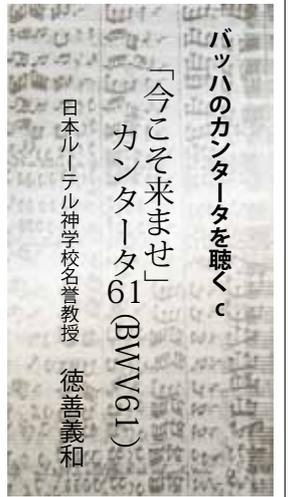
今年の8月から始まった「つるしびな」プロジェクトについて、現地の方の声を届けます。

私達は布集めなど早速行動に移したのですが、三か所の仮設団地とボランティア会員全員への準備は思っていた以上の費用がかかり、行き詰ってしまいました。そんな時、相談にのっていただき、手を差し伸べて下さったのがルーテル教会の援助、会場の準備、おやつの手配まで、真黙に、そして、温かく心掛けて下さりました。

月以降は未定です) 定員 各日若干名
「つるしびな」材料
「つるしびな」の材料を次の通り募集します。
①綿 江戸組ひも(細めの糸は多く必要です) #洋裁用の接着剤付きの薄い芯地#布 ちりめん(白)ピンク、薄桜、緑、黄、青、柄物)%フクロウの目(ぬいぐるみなどで使われる直径8ミリのもの) 上記にご協力いただける方は、野口までメールでお問い合わせください。
(knoguchi@jaler.jp)



JLERブログ
「ルーテルとなりびと」
http://uheran-tonanbi.blogspot.jp/



バッハのカンタータを聴く

「今こそ来ませ」
カンタータ 61 (BWV61)

教会暦は十一月末か、十二月初めに新しい年を迎える。教会の、また信仰の新しい一年の始まりである。

ルターがコラールを会衆のために整え出したのも、この教会の、また信仰の一年の始まりの頃だった。最初期のコラールのひとつ、「今こそ来ませ」(教会讃美歌1)は1523年から24年にかけての成立と考

えられているからルターによる最初の讃美歌の一つである。アンプロシウスに帰されていたラテン語の讃美歌を、ルターなりに訳に工夫を凝らし、編曲もしてドイツ語の会衆讃美歌としたものである。「主よ、今こそ来てください」と主を待ち望む切実な思いが歌われるのである。

バッハはこのコラールも好んでいて、オルガンのためのいくつものコラール前奏曲を作曲している。その内私が好んで聴くのは BWV659 である。「今来てくださ



戸の前に立っている」という再臨のイエスのことばに続き、更にソプラノが教会に向けて、「一杯開け」と歌い、最後は Ph. ニコライの有名な、主の顕現の讃美歌「恵みに輝き」(教会讃美歌57)の第三節をもって終わる。ここでも聴く者は讃美歌を聞いてこの節を共に歌うこともできるだろう。

カンタータは、バスで「見よ、私は

アルファとオメガ

ステンンドグラス工房 アスカ
山崎種之(松本教会会員)



キリスト教関連の施設、学校、教会堂のステンンドグラスは単なる装飾ではない。これも宣教を目指すものでありたい。

初代教会の宣教がギリシア文化の地域で、公用語としてギリシア語が用いられていたの、キリスト教のシンボルにも伝統的にギリシア語が多く出てくる。



ンドグラス最上段にはアルファ(写真左上)とオメガ(右下)がデザインされている。『ヨハネの黙示録』1章8節「神である主、かつておられ、やがて来られる方、全能者がこう言われる。わたしはアルファであり、オメガである。同22章13節「最初の者にして、最後の者、初めであり、終わりである。」

は野いばらで、するどいとげがある。主は十字架の前にこの野いばらの冠をかぶせられた。主のご受難を覚えて。『マルコ福音書』15章17節、『マタイ福音書』27章29節、『ヨハネ福音書』19章5節。そして、野いばらは原野にあって、とても強い生命力を持つ。しかも小さな花は微香を放つ。キリスト者の生き方、歩む道を指し示す。ルターローズも原種のバラから生まれた。



松本教会・長野教会牧師 佐藤和宏

ワークキャンプ報告

「What Would Jesus Do?」 — イエスさまなら、どうするだろう? —

このテーマのもとワークキャンプは松本は、9月3日から8日まで松本教会を会場に開催された。昨年の改築で新しくなった会堂の南側スペースにウッドデッキを作る

「What Would Jesus Do?」 — イエスさまなら、どうするだろう? —

このテーマのもとワークキャンプは松本は、9月3日から8日まで松本教会を会場に開催された。昨年の改築で新しくなった会堂の南側スペースにウッドデッキを作る

このテーマのもとワークキャンプは松本は、9月3日から8日まで松本教会を会場に開催された。昨年の改築で新しくなった会堂の南側スペースにウッドデッキを作る



このテーマのもとワークキャンプは松本は、9月3日から8日まで松本教会を会場に開催された。昨年の改築で新しくなった会堂の南側スペースにウッドデッキを作る

宣教会議報告

宣教室長 青田勇

3名(東教区は4名)、合計25名。

総会を受けての第一回宣教協議でもあり、今回の主な議題は多岐にわたり、

！第6次総合方策「構造

6月常議員会の議決に従い、10月1日(月)から3日(水)の三日間、東京教会とルーテル市ヶ谷センターを会場に今年度の「宣教会議」が開催された。

出席者は、議長をはじめ本教会の四役、事務局スタッフ、信徒常議員、それに各教区から各々

2012年度「ルーテル連帯献金」のお願い

今日の社会・世界における福音の宣教、奉仕、災害・飢餓への支援活動として日本福音ルーテル教会がお願いしている「連帯

献金」のために、各個教会及び教会員・教会関係者の皆様から、献金を捧げていただいています。

今年度は「連帯献金の特別指定献金を以下のよう

化対策及び神学教育機関維持支援の今後、第二次災害に向けての震災対策(防災、エネルギー対策等)が議論された。

！第6次総合方策「構造

改革」諸課題、「現行種別の見直しの検討」、「教会共同体の形成と進捗課題」、「北海道特別教区の教区制の見直し」、「総会の在り方・開催日程の検討」、

” 宗教改革500年記念事業、# 転任積立制度の改訂、\$ 収益事業対策(耐震・老朽化)、教会の老朽

て送金される私たちの献金が、世界において支援を必要としている多くの人々に用いられていくことを祈ります。

日本福音ルーテル教会 宣教室

指定献金「ラジブル伝道」

1965年から日本福音ルーテル教会の海外伝道として誕生した、サンパウロにある日系人教会の宣教支援として派遣されている徳弘浩隆牧師夫妻の人件費を補うために、毎年200万円の募金目標を掲げています。ご支

援

本教会、当該教区、それに東教区の協力も得て、検討を加え、2014年度総会までに一定の方向性を示す必要があることが確認された。

2017年の宗教改

革500年記念事業は、「神の救い」のビジョンを伝える宣教の機会として、第6次総合方策での主要課題であり、全教的に取り組み宣教・教育事業計画である。

これに関しては、方策の原案と共に立山議長による記念事業骨子案も提示された。今日の世界と日本社会に、ルター

援と献金をお願いします。

指定献金「葛望の家」

釜ヶ崎「ニアコニアセンター」葛望の家の活動の支援をお願いします。アルコール依存を抱えた方々の支援、相談、アルコール

の飲まない生活を支えるための「自立生活支援プログラム」の提供、病院訪問

さらには「路上生活者」として、街で路上生活者

の声をかけ、生活や医療の相談をし、路上生活からの脱出を手助けする支援を展開しています。

■特定献金「メコン流域支援」

派教会としての幅広い公共性をアピールする事業内容にしていくための諸意見が出された。

東日本震災の救援

活動を継続しつつ、今後の大震災に備えての各個人教会、および教区の第

二次震災対策及び危機管理体制のあり方、さらに原発問題により、求められている環境保護とエネルギー対策の一環としての太陽光発電導入の事例報告なども紹介され、教会のエネルギー対策の取り組みについても相互の意見交換を行った。

援を必要としている人々の救援活動へ速やかに対応するために「無指定献金」を設けています。無指定献金の配分・送金先は本教会常議員会に委ねられています。

日本福音ルーテル教会は「メコンミッション活動」として、メコン川流域の人々のための宣教・教育・奉仕事業を香港、シンガポールのルーテル教会と共同で展開しています。

カンボジアのコンポン・チュナン地区の子どもたちへの食糧(20名、週5日分食事提供)、医療と教育(200名)の支援活動のために献金をお願いします。

■無指定献金「世界宣教のために」

飢餓や内戦による難民状態にある人々や、突如の自然災害を被り、緊急の支

援

市川教会修復完了 感謝とお知らせ

2007年10月23日

文化庁は登録有形文化財審議の答申を受け、日本福音ルーテル市川教会会堂を「登録有形文化財」として登録することを決定しました。これにより、ウィリアム・メレル・ヴォーリズの晩年の設計である市川教会会堂が、後世に遺すべき貴重な財産であると認められたのです。以後、会堂保存事業計画が本格化しました。

資金は自己資金と本教会からの借入しかありませんので、以下の方針を立てました。1.地盤強化のため

に「アンダーピニング工法」(外壁下50箇所に、直径15センチ長さ1m程のパイプを地下7mにある硬い地盤まで繋ぎながらねじ込み会堂外壁を支える)を行う。2.外壁は剥がし全体に鉄骨を9か所入れ強化する。3.老朽化した窓枠や雨どいの補修。\$ト

イレは使い勝手の良い仕様に変更する。以上、最低限の計画でしたが、私たちの資金計画とは大きな隔

たりがありましたので、地域の皆様や全国の皆様にもご協力を願うこととしました。

工事の間の礼拝は市川教会の生みの親である国

府台保育園を

お借りでき、2011年10月に工事が開始されました。荷物が撤去されると床板が剥がされ、地盤強化の工事が始まりました。数十センチ掘ると地下水が湧き出すという厳しい状況でした

が、様々な工夫を凝らして予定通りに年内で終わりました。2012年になるといよいよ本体工事となり、湿気やシロアリによる被害が予想以上にひどく、特に屋根は根太や梁の多くがボロボロの状態でした。当初予想していなかった搭屋全解体を実施せざるを得ませんでした。

1年1カ月という工事期間を経た今、皆様の祈りとご協力を得て工事は終了しました。次の世代に愛すべき会堂を遺せる喜びを覚えています。宣教開始の志を思い起こし、市川教会の群れが歩みを再開します。なお、12月2日には竣工感謝の式典を行う予定です。お覚えくださった皆様、心より感謝申し上げます。

市川教会牧師 中島康文

広報室では、現在JELCホームページのリニューアルを計画しています。

各教会・学校・施設などで、現行のJELCサイトをご確認いただき、ご自分のホームページへのリンクが切れていたり、URL変更されたい

たりする場合は、正しいURLを広報室へご一報下さい。

広報室からのお知らせ

